「令和の時代に」理事長挨拶

令和という時代になり最初の「ようこうだより」を発刊でき、大変嬉しく思うのと同時に、館邑会の歴史に新しい時代を迎えた機会に、改めて法人が進むべき方向を確認したいと思います。

館林邑楽地域の障害者支援をいち早く始めた館邑会です。現在では、他法人の皆様が多く福祉サービスを提供しているので、利用者にとって多くの選択肢が増えてとても素晴らしい時代になったと思います。

しかしながら、館林邑楽地域では、このような社会資源はまだまだ不足していると伺っておりますので、館邑会においても地域のニーズを正確に把握し、そのニーズに応えるべく事業の展開を続けてまいりたいと思います。

さて、表紙に掲載させて頂いた、日産キャラバンですが、昨年暮れに日本テレビ放送網株式会社（毎年夏に放送される24時間テレビ）より福祉車両ワゴン車の寄贈を受けました。大変ありがたく車両を利用させて頂いております。この福祉車両は全国の皆様から寄せられた善意のある寄付金から購入し贈呈されたものと伺っております。法的な名義は館邑会のものですが、本当の持ち主は、24時間テレビにご寄付をして頂いた皆様ということを念頭に置き、大切に使わせて頂いております。放課後等デイサービス「ういず」で子供たちの送迎に活躍しております。

館邑会において、社会貢献の新しい取り組みについて皆様にお知らせしたいことがあります。公益財団法人日本財団（公営競技のひとつである競艇の収益金をもとに、海洋船舶関連事業の支援や公益・福祉事業、国際協力事業を主に行なっている公益財団法人。）という団体があります。過去に於いて、ふらっぐの店舗改装工事に多額の補助金を頂いたり、第二陽光園・陽光園・ふらっぐの各事業所で福祉車両の補助金を頂いたり多くの恩恵を受けてまいりました。この度、日本財団様より寄付金の協力依頼を受けました。最初に、第二陽光園の食堂に伊藤園のジュース自動販売機を設置いたしました。続いて陽光園にも設置いたしました。仕組みはジュースやコーヒーなどが1本販売される毎に十円の寄付金が日本財団に贈られます。既にこの事業は、日本全国、数多くの会社や病院、社会福祉施設などで取り組みが行われています。ジュースの売り上げを通して間接的に社会貢献を行うことになりました。なお、この寄付の使い道は、社会的養護経験者（親の死亡や病気、虐待等の理由で養護施設等で暮らした若者達）の奨学金制度「夢の奨学金」に使って頂くことになっています。

今後も、いろいろな取り組を通じて社会福祉法人として貢献して行きたいと思います。

理事長　山川　博